

5C①キングダムセミナー20250111

5C①前半キングダムセミナー20250111

賛美 16:58.40

前半

皆さん、改めて今年も宜しくお願い致します。

ちょうどキリ良く、2025年の1月、今回からキングダムセミナーの第5クールの1回目になります。

今回から初めて参加される方もいます。そして、これまでも何回も聞かれている方が、また今回も続けて参加されています。これまで何回も聞いた方が、「また、あなたやるの?」と言われたかもしれませんね。だけど、一回、一通りやっただけでは、頭には慣れた、分かったけれど、自分の血となり肉となるには、もうちょっとかかるなということがわかるから、それがわかる人は、順調だと思います。私がもしこれに参加して聞いて学んでいるんだったら、私も、もう1回、2回、3回4回5回と聞くとと思います。そして、**確かめて、消化するように努めると**思います。当然です。

これね、本当に1回聞いて、「ああ、そんなもんね」っていう人は多分、頭のいい人だと思います。けどね、神の国は、頭だけではいけません。そういうものです。だから、自分の中でしっかり咀嚼して、聞いて下さい。私も、語りながら自分で聞いてます。そして毎回教えられるところが本当にあって、自分の為にもいいなと思っています。

ですから、初めて新しく参加される方、いろんな事情があって、1回聞いて、聞けるときだけ聞いて、録音をちょっと聞いて、それで聞かない日もあったりと、いうように、戦いの中でお聞きになると思いますが、これ、ずっと長く続きますので、**どうか、根気よく聞いてみてください**。「ちょこっと、何回か聞いて、自分の身につくようなものではない」と思います。それに、月に1回です。前半 約1時間半、後半 約1時間半。1回やる幅は大きいけれど、月に1回だけ、1日だけです。**1回の内容が、我々に、どんなに濃厚なものになっているか、・・・**だから、望むならば、1回現場で聞いて、あるいはリアルタイムで聞いて、そして、録音を聞いてみて下さい。「そんなに大事なんだったら、月に2回3回、毎週やってくれたらいいのに」という声が前にもありましたが、でも、じっくりと消化していった欲しいんです。また、リアルタイムで聞けなかった場合は、録音データをアップされます。後で、ボランティアでアップしていただきますから、そこからも聞けます。

それから、その録音とは、別に、過去の録音が聞けます。しばらく経ったもの、過去のものを聞くには、皆さんと繋がっているセミナーのグループラインを開いて、右上にある三本線をタップすると、ノートというところが出てきます。そのノートをタップして、セミナーのホームページのアーカイブのところを開けば、4クール、5クール目分が、全部聞けます。中には文字おこしてくださっていて、読むこともできる場所もあります。これからも1回1回、そこにアップされます。(アップされるには、ちょっと1週間2週間遅れますけど)、そこに全部、本棚として、今後に残していきますので、それを聞くのもよいでしょう。

ですから、1ヶ月これ1回だけど、後、これまでの録音を日々、何回か思い返して聞かれると、本当に身につくと思います。くれぐれも言ってますけれど、それは**何故かか**という、私自身もそうでしたからです。何回も何回も聞くように、言われていたからです。ある私の信仰の先輩からは、「**1回聞いてわかったと思ったら間違いだよ。20回聞きなさい**」と言われてきました。「えー、冗談でしょ」とその時は、思ったけど、**それぐらい、自分の耳に慣らして、頭に慣らして、心に沁み渡ってくる**。そうすると、自分の血と肉となって神の

5C①キングダムセミナー20250111

言葉が動くようになる。表面は冗談言ってるのきでいいんだけど、皆さん、それぐらい、霊の奥底のしっかりした“本物の神の言葉に向き合う”という時には、もうビシッと“腹を決めて”、いこうじゃないですか。

2025年、年明けの言葉でした。24:01.03

ところで、皆さん、セミナー本をお持ちでしょうか。もし、なければ言ってください。このお茶の水の教室でも買えますし、遠方であれば、郵送することも出来ます。

さて、今日は、この本の中で言っていることを、本当により深く理解するために、この本に入る前に、まず、初めに押さえておきたいことがあります。今回だけでは、終わらないかもしれないんですが、・・・ぜひわかっているほしい“聖書の初めのボタン”があるんです。それで、今日は、すでに予告しましたように、初めに押さえておきたいと思っていることを、言わせて下さい。

まず、「キングダムセミナーってなんなの？」ということ。長丁場で、なんか、ぼや～とした感じで・・・と、そんな感じで取り組むのもね。ですから、皆さん、本があるならば、本の最初の《はじめに》と書いてあるところ、4ページを開いてみて下さい。これは本の裏表紙にも印刷されていますけれど、これは、「はじめに、ちょっと知っておいてね」という思いで、書きました。ここを、読んだことがありますか？ちょっと、読みますね。

今、私たちが歩んでいる日々は、教会時代から次の時代に移る過渡の時代です。これまでの時代には、失われたり隠されていた多くの真理が回復され、伝播されていく時代に私たちは入っているのです。過渡期というのは、到来するものを迎える喜びとともに、少なからず、混乱と戸惑いがつきものです。

この回復の最中にあっても、ある人々は、これまでと同じように励んでいるのに、なぜか以前と同じ手ごたえを感じることができなくなっていることに気が付き始めます。なぜなのか。それは、その時期における回復の油注ぎが変化してきているからです。かつて、旧約の時代から、新約の時代へと移変わる大きな過渡の時代がありました。当時の人々も、二つの時代の大きな違いに戸惑っていたのです。

私たちのこの日々も、まさにそれと、同じほどの変化の時代であるといっていいいでしょう。この変化を神ご自身がもたらしているのです。しかし、神の業が人間の視点で受け取られるとき、戸惑いと不必要な混乱が生じてしまいます。その結果、回復の果てにある目的地に着けないとすれば悲劇です。新しい酒には新しい皮袋が必要です。今日から始めるこの集会において、私達はこの時代に起こっていることの『本質と目的』とを、神の言葉の啓示に基づいて学んでいこうとしています。それによって、私たちは新しい時代を受け取るための“新しい皮袋”を用意することができるでしょう。28:41.34

皆さん、ここを読んで、なんのこっちゃっていうことですか？あのね、はっきりしているのは、旧約の時代から新約の時代への移り変わりの時期ってどうですか。ある程度、聖書を読んできた人だったら、その頃に自分が生活していたら、どんなに思ふかなと想像してみてください。旧約の時代の“教えと在り方”、その習慣のままに何の疑問もなく、そこで生きることもできたはずで。ところがイエス様が来て、弟子たちと歩んで、そして、イエス様が、十字架にかけられ蘇って、・・・あれっと。あの地域、パレスチナのあの地域

5C①キングダムセミナー20250111

だけで、わいわい、ざわざわやっていたんでしょ。当時ネットニュースなんかありませんからね。BS ニュースもありませんからね。世界中の人々は、そんなの知ったことじゃなかったですよ。それでも、あの一部の地域で起こった出来事が、神と全世界との歩みを変え始めたんでしょ。すごく興味深い時代の変わり目ですよ。

私たちはよく、戦国時代から〇〇時代へとか、江戸時代から明治時代への過渡期を、“移り変わり”とかって言うけど、それどころじゃないですよ。神がこの世界に対して取り扱われる、なさろうとされることが、移り変わっていく時代なんです。イエス様の時代、その頃、日本は何時代？縄文？弥生時代？その頃の時代ですよ。私の近くの都立公園には、弥生時代の小屋が設置してあるんです。私、そこを通る度に、「この人達、イエス様の時代に生きたんやなー」と。縄文時代、弥生時代の人、その時代の変わり目をわかっていただいでしょうかね。「何処の話やねん」ってね。地球の向こう側の話なんか、そんなこと、知った、こっちゃない。同じように川で魚をとって、浜辺で魚をとっていたと思いますよ。でも、その辺りが、時代の過渡期だったんです。32：23.98

第一番初めは、何ですか？ 神様が人類に、人に、あるいは選んだ人に、語りかけて始まったんでしょ。それが、このように残っているわけですよ。具体的に神の言葉の啓示を語り始めるっていう者は、初めは、ほんと、一握りの“ひとり”の人でしょ。後に、アブラハムが選ばれて、一つの民族になっていった。

初め、神が、世界を造ったその初めが、初めてのいわゆる“起こり”だよね。それも大きな始まりであり、起源であり、変わり目であるよね。その言わば、第一の過渡期じゃないけど、“起こり始め”が、創世記、そのところから、今日は、みてようということです。それから、その変化を、旧約の時代を通して、イエス様が来られた時、あれが第二の時代、過渡期なんだということです。

それからじゃあ、今は、イエス様がこられてから 2000 年経つ。今は、ほら、イエス様がもう一度来られるとか、携拳だとか、千年王国だのと、言ってるじゃないですか。この時代も、一つの新約の教会の時代を超えて、過渡の時代に頭を入れているんです。34：45.98

だから、ここに書きましたように、私たちの日々も、まさにそれと同じほどの変化の時代であるといっているでしょう。そして、その上の段落、なぜなのか、それはその時期における回復の油注ぎが変化しているからです。かつて、旧約の時代から、新約の時代へと移り変わる大きな過渡の時代がありました。当時の人々も、2つの時代の大きな違いに戸惑っていたのです。・・・その戸惑いの様子が、福音書にいっぱい書かれていますよね。そんな話を、皆さん勿論、知っておられると思います。

〔パリサイ人たちが、イエス様に寄ってきて、「イエス様、神の国はいつ来るのですか」と聞いた。〕「いつ来るんだ。」「いつから神の国になるんだ。」と、・・・なぜ、そんなこと聞いたかということ、この奇跡を起こし、神の言葉を語り続けている、“ナザレのイエス”が、エルサレムに向かっていたからです。この人が、田舎でちょろちょろして居るだけじゃなくて、いよいよエルサレムに向かっているんだということが、彼らの驚きだったんです。注目だったわけよ。そして、エルサレムでこの人は王となり、自分たちの民族、国を、周りの世界の国々において支配して、世を治める『王』となってくれる『メシア』なんだと、彼らは期待したからです。36:51.21

5C①キングダムセミナー20250111

『神の国』はいつになったら来るんですか？もうすぐですか？それは、みんな、したい質問ですね。いつになったら携挙があるんですか？患難前ですか？患難の後ですか？真剣な問題として、私も聞かれますよ。エゼキエルの言っている戦争があるんですか？いつですか？千年王国はいつですか？と言うじゃないですか。だけど、パリサイ人の質問に、イエス様はなんて答えたか。『神の国は、目に見えるようにしてくるものではない』って。この一言は、パリサイ人の人達にはショックだったと思いますよ。ガーンと。だって、エルサレムで、王となって、強力な軍隊を組織して、世界を収めるのは、マジ、政治的な軍事的な事柄として目に見えるものだから。

だけど、【『目に見えるようにしてくるものではない。』『神の国は、そこにあるここにあると言うようにしてくるのではない。』・・・では、神の国はなんですか？「あなたがたのただ中にあるのです】と。ルカ 17 章 20～21 節このギリシャ語の訳が難しいんです。聞いたことあると思います。

あなたがたの『ただ中』という言い方をすると、あなたの『内側』にあると言いたい。ところが、ギリシャ語の単語には幅があって、あなたがたの『間』、[この間にある]という言い方にもとれるんです。あなたがたの間、[この間にある]という絶妙な言い方を、ギリシャ語聖書では語っている。本当に絶妙だと思います。39:07.07

私は、それをキングダムセミナーで言っているように、「聖霊が、あなたの中に住む」「三位一体の聖霊は、我々の礼拝の対象として、『三つ並んでいるんじゃない』んですよ」と言っています。「聖霊は『あなたの側に来てくださった主であり、『助け主』なんですよ』ってね。「あなたと聖霊は、一緒になって、父を礼拝するんだと。「イエスを仰ぎ、イエスのようになっていくんだ」と。39:49.24

だから、我々の『内』に『御霊が住む』、その御霊とあなたとの『関係』が《神の国》なんです。そして、そういう『あなた』と、そういうもう『ひとりの隣人』との『間の関係』、『リレーションシップ』が《神の国》なんだと。40:21.11

その私とあなたとの関係性というのは、具体的に、どういう所に現れますか？そして、内なる御霊とあなたという人との関係性は、どういう特徴があり、どういう使い方がありますか？という具体的なところまでセミナーの中で、迫っているわけよ。だから、それを頭で、「はい、はい、そっか、そっか」って、スッと通り越しても、本当に意味がないことになります。40:57.99

今は、興味深い大切な過渡の時代です。だからね、当時パリサイ人ってイエス様にそれを質問するまでもなく、旧約聖書なんか丸暗記しているぐらい、もう、トラーをそらんじて歌えるそういう人たちであって、預言書や詩篇や雅歌やソロモンの箴言も、もうみんな暗じて、そらんじて、知っているぐらいの人たちが、《神の国》は、こういうふうにくるんだ、こうくるんだと、暗中模索しながら、彼らの知恵をつくして、議論していたんです。ところがイエス様に対して一言聞いたら、イエス様は、彼らの心に浮かんだものを尚、越えて、それを完全否定するのではないんだけど、それをもっと深く掘り返して、神の国のエッセンスをパリサイ人たちに語ることができたわけ。42:15.35

5 C①キングダムセミナー20250111

我々も今まで、旧約時代、新約の時代プラス教会時代と、さんざん掘ってきた、学んできた、聞いてきた、「これこそ真理だ」と思ってきた。そのことを 神様は、否定はなさらない。御霊は、頭からは否定はしない。けど、我々に今、これからまだ必要な新しい時代の『新しい捉え方』っていうのは、これまでのものを全否定することなく、そのうわべを、皮 2 枚 3 枚剥がして、さらに深く手を伸ばして、それを引き出してくるんです。43:10.22

だから、イエス様は、「だから、天の御国のことを学んで、弟子となった学者は、みな、自分の新しい倉からも、古い蔵からも、出してきて用いるのだ」(マタイ 13:52) と。そういう学者に、我々は招かれているんです。そして、今の時代に本当に生きるものとして、『世の光』として、『地の塩』として、塩味の聞いた言葉を、我々は表現できるように。

そうやって、旧約のトーラーに、心酔して、コチコチになっていった立法学者やパリサイ人や祭司たちも、大勢、新約の新しい真理に、目覚めていったんですよ。全部が全部、「イエス様を十字架につけろ」と言っていたんじゃなくて、「この人の生き方は、神からのもの」だって、感じる人もいたわけです。これは、大きな興味深い時代です。44:53.25

今までのやり方で、今までの通りにやってなんも悪いことはない。どうぞやりましょう。けども、だんだんと、乾く心の置かれた人には、なんか油注ぎがないように感じる。そういう不思議な時代に、我々はいらっしゃるのですよ。それを我々は今、これから一つ、一つ、紐解いていきましょう。これまで何回も聞いてこられた方、一緒に学んだ方は、今、私がそれを総まとめに言いましたけれど、・・・「あ、そうだったのか」と、ちょっと思いましたか。46:13.79

はい、それでは、その過渡期の第一と言っても良い、そこに、スポットライトを当てることにしましょう。みなさんが、よく開いて、よく知っていられっしゃる創世紀 1 章のところですよ。今、みなさんに、対訳聖書の創世紀 1 章の最初のところのコピーを、グループ LINE に送りました。お持ちでない方もいられっしゃると思ひまして。この教室で、お持ちでない方には、今配りますね。初めてこんなものを見る人は、どうぞ、驚かないでください。別に今から、こんな小難しいヘブライ語を、どうのこうのって、覚えろとか言うのは、ないですからね。50:11.49

聖書って、どういうものかという『捉え方』だけを知ってもらいたいわけなんです。それで、創世紀の第一章、1 節から日本語訳聖書を読めば、【初めに、神は、天と地を創造した。地は形がなく、何もなかった。闇が大いなる水の上にあり、神の霊は水の上を動いていた。その時神が、『光よ、あれ』と仰せられた。すると光があった。神はその光を『良し』と見られた。そして神は、この光を『闇』と区別された。】と、書いてあります。長くクリスチャンをやっておられる方は、もう読まなくても、全部暗誦できる位に慣れていられっしゃると思います。慣れて、慣れて、慣れているがゆえに、ちょっと新鮮な気持ちで読むことないがない箇所かも知れませんね。51:28.00

それでね、みなさん、想像してみてください。モーセか誰かが、おそらくその周辺で、「おい、これ、できたから、Word で打ってよ」と言われて、バツパツと Word を打った？ Word なんて、この時代にあるわけない

5C①キングダムセミナー20250111

でしょ。そしたら、凸版印刷か？・・・それもあるわけないでしょう。何にもないんですよ。神様が語り始めた時って、何にもないんですよ。「じゃあ、神様、私、今からあの羊を殺して、皮なめしをして、それを引き伸ばして、そしてインクを作って、書き取りますので、「お話しください」と言ったら、いやいや、それさえも、・・・それをもし、モーセが書いたとて、・・・じゃあ、その当時、それを読める人がどれだけいたのか。じゃあ、どうしたらいいんですか？ 52:51.33

神様が語られたことを、伝えるにはどうしたらいいんですか？それはもう口から口に伝えるだけでしょ。口づたえなんです。口伝なんです。・・・ひとつ、文章があつて、はい、プリントしたからみなさん、持って帰って下さいと、今日のこのプリントみたいに、「持って帰ってください」とか、「ユダヤ民族全体に、LINEで送りました」と、言うわけにはいかないわけですから。もう、それが当たり前ですよ。

ですから、当時のモーセの一族、ユダヤ一族、アブラハム一族の中でも、神が語られた『神の言葉』、『神の教え』というのを、どうやって彼らに伝えて広めていったかということ、もう、朗々と口で語り、耳で聞くと言う、そういうことだったんです。耳で聞くのも、そんなの10メートル20メートル、遠くにいたら聞こえないでしょう。いっぱい人がいたら聞こえるのは、ほんの周りにいる数10人ですよ。そして、その人からまた別の人のというふうに、ヘブライ語で、伝えられていきました。今、配りましたものに、そのヘブライ語が書いてありますね。その下に、カタカナで読み方が書いてある。そして、その下に意味が書いてある。そして、一番下に、その単語の種類が書いてある。便利だね。55:29.70

そうすると一番初めの単語は、カタカナで書いてある《ベレシート》という言葉です。これを、とにかくこのまま正確に発音して、口から口へと伝えていったんです。聖書というものは、耳で聞くものなんです。

ということは、語り伝える人と伝えられる人が向き合って、面と向かって親しくないとは出来ないじゃないですか。ですよね。なので、これが、この距離と関係性が原点だということです。

そして、『語られた方』、それを『聞く方』は、・・・初めに誰かが、聞くんですよ。まあ、モーセなんですよけど・・・、じゃあ、モーセが聞いたら、モーセは「おいおい、今から神様がな、話してくれるっていうから、集まれ」と言って、シナイ山の上にいったか？・・・でも、その時、モーセひとりだよ。

56:40.33

つまり、神様は、語る相手と、1対1になる。誰もいない。その人だけそこにいて、そして、その人に向かって、『向き合って』語り始めたんです。『聞いている方』は、自分の他に誰もいない。いたとしても気にならない。神様の声を『自分の全身に浴びる』。頭の知識の端っこに「ああ、そうか、そうか」と言って、ハスに構えて聞いたんじゃないんです。神に向かって、心を開け放って、もう、神様の語るその言葉の吐息を感じるぐらいに、息づかいや、神様の語るドキドキを感じるぐらいに、全身にそれを『浴びた』んです。

58:02.31

こういうふうな向き合い方と、出会い方、始め方、聞き方いうのを、現代人の我々は、していますか？
そういう本来の伝わり方、聞き方から外れて、もの凄くハスに構えていると思いませんか。目を斜めにし

5C①キングダムセミナー20250111

て、頭の端っこに、「まあ、置いといてみようか」と言うぐらいの感じで、聞いちゃっているんです。でも、初めはそうでも、だんだんと変わってくる。それは、それで、当然なんです。

それでも書かれている文字を読むわけでもないから、ユダヤのアブラハムの子孫の彼らは、はじめ、どうしたかという、・・・[ベレシート、バラー、エヒーム]と、ただ素読で我々が朗読するように読んだのではなくて、その語られた息づかい、神様の感動をもとに、それにメロディーをつけました。

皆さん、これを見てカタカナを読んでみませんか？ ヘブライ語の文字を読める方は、どうぞご自由に。声に出して、読んでみましょう。[ベレシート、バラー、エロヒーム、エツト、ハシャマイム、ヴェエツト、ハアーレツ]カタカを読んでも、難しいよね。でも、これを日本語で訳してある。[初めに、神は天地を創造された]と。だから、非常にスマートに、ずっと読めるんです。

でも、初めのアブラハムの子孫たちは、こんな『聖書』っていう本は、ないですから。それを、文字に書き出したとしても、みんなそれを持っているわけではありませんから、大変なんです。だから、それを本当に、神様の『息遣い』を大切に、書き写したんです。残したんです。彼らはそのように言っていました。

1:01:21.24

ヘブライ語による先生の朗誦(創世記 1:1～5 節まで)

これが、第一日目です。1:03:37

それで、「こういうふうに歌いなさいよ」という、印が、この原文のヘブライ語の中に、全部含まれているんです。私が勝手に節をつけて歌っているんじゃあ、ないですよ。このように歌いなさいよという印が全部ついてある。その歌い方の印が含まれたヘブライ語の文字が書かれ始めて、聖書という巻き物が完全に来るまで、今まで、2500年以上は、経つ。その間、その写生字と言う人たちが、完全にこれを書き写してきたんです。その書き写してきた人たちが、この歌い方も、1つ1つ間違いないように書いてきたんです。それで、今、私たちの手元には聖書の原文として、そのまま残っているのです。それは、単なる文字の読み方じゃなくて、さも、このように語って、歌いなさいよ。そして伝えなさいよと、言っている。そういうことなんです。1:03:53.00

それで、[初めに、神が創造した]という、聖書の一番最初の言葉、《ベレシート》が、旧約聖書の第一簡《創世記》の名前になっているんです。日本語では《創世記》って言いますが、《ベレシート》と言います。この[ベレシート]という言葉は、合成語で、[ベ]というのは、[～の中に]という前置詞です。[～において]とか、[～の中に]という意味です。そして、[レシート]というのは、[頭]という意味です。[トップの最初にね]と、いうことを言っています。この[トップの最初に]という意味は、私たちは、すぐ歴史的時間の最初と思うじゃないですか。当然ですけど。歴史的時間の最初と言っている以上に、[頭に]ということが来ると、もう一つ、余分な意味がある。それは[頭に]ということは、もう、[このすべての存在][あるもののすべてのトップ][頂点][最高の、最高のところ][その位置]、[その立場]、[そのステージ]、・・・要するに、[神様の最初のわざ]と言いたい。

5C①キングダムセミナー20250111

ヘブライ語聖書の後に、ヘブライ語の辞書が、どんどんと作られてきて、出来たその中には、この[レシート]を[サミット]だと訳す辞書があるぐらいです。今、我々は『サミット』って聞くと何ですか？スーパーじゃないよ。世界の首脳が集まる『サミット』だよ。ということは、そのトップの、トップのステージ、そこで、起こったんだよ。つまり、トップの、トップの最高の頂点の『起こり』。ということです。

その『神様のステージ』に、誰が目の前にいるんですか？・・・『あなた』です。これを『読む人』です。これを読むあなたが、ひとり、そこにいて、神は、そこに、『招かれたあなた』に、ご自身の気持ちを、思いを、シャワーのように、あなたに惜しみなく、ふり注いでおられるという『その姿』です。それを、神が創造したんだよ。 1:08:27.04

もう、詳しく見た方は、お分かりでしょう。[バラ]が、[創造した]でしょう。次、[エロヒーム]は、[神]です。その下の単語の種類を見てください。男性系で複数になっているよね。なんで？やっぱり、神様は複数形？日本人がこれを発見したら、「いや、やっぱり八百万の神って、あるんだな」なんてね。・・・そこまでいくことないんですけど、この神は、複数形なんです。そしたら、複数形なんだったら。[創造した]っていう動詞[バーラー]も、複数形でないといけないのに、この[創造した]っていう単語は、単数になっているよね。主語は複数形なんだけど、動詞の方は、単数になっているということで、この複数で書かれた神は、1人の『高位者』なんだということが、ぱっと、わかります。複数が、バラバラに、なんかやっているんじゃないでしょ。キリスト教の神学では、「これは『三位一体』だからだ」っていうことにしている。 1:10:12.29

でも、新約聖書が出来る前までは、「これを何と考えていたんだ？」というと、この紙面の一番下、欄外の線の下を見て下さい。ここに、ごちや、ごちやと、いろいろ書いてあります。

1、の3段目。エロヒーム、[唯一神]だが、尊厳を表す複数形。動詞は単数形を取る。と書いてあります。要するに、「高貴なお方、尊敬されるべきお方は、単数で読んではいけない」という、この当時の伝統があったからだ、ここでは、説明しています。本当にそれだけでしょうか？考えるのは、あなたの自由ですよ。

三位一体というものの、ここでの根拠は、・・・新約では、イエス様がこの世を造られた。イエス様もそこにおられた。という表記がありますよね。(ヨハネ1:1-5、エペソ1:4、ヘブル1:2)だから、『三位一体』というのは、間違いではないですよ。でも、そうだとすると、神様というお方は、イエス様、神様と聖霊とが一つだと、・・・それは一つだとすると、そこには、『共同性の神』、『向かい合うものがある神』、という、『神の共同体性』がそこに、現れています。ちょっと、そういうところを思いに置いて、読みますよ。

1節朗読 [ベレシート、バラエロヒーム、エツハシャマイム、ヴェエツ、ハアーレツ] 1:12:50.41

そして、[天と地を造られた]と書いて、2節の初めに、[そして、地は・・・]と、私たちは平然と読んでいきますけど、元々の原文では、本当の、アブラハム一族の伝えられ方からすれば、そこでは、[そして、地は・・・、[ヴェハアーレツ]だけ、言っているんじゃないくて、朗読で読むと、[ヴェハアーレツ]と、ためがあるんです。スツと言ってるんじゃないんです。[天と地を造られました。][そして、][地はね、]と、2節は、念を押すように、また始まっているんです。

5C①キングダムセミナー20250111

そして、[ハイター トーフー ヴァヴォーフ]・・・ここに、強調があります。[形なく、虚しかったんだ]と、こう言っているんですよ。こういう、原文にある息づかいが、書き込まれ、伝えられているにも関わらず、後のキリスト教会は、それを受け継ぎませんでした。「そんなの、あのユダヤ人が、歌いやすいように勝手に歌っているやつだろう。我々は、覚える必要ない」と言って、切り捨てていきました。だから今でも、「ああ、そんなのいらない。いらない」と言う人は、いっぱいいます。でも私は、そうは思いません。

貴重な原文の息づかいがそこに現れていると思います。それによってね、聖書の味わいが全然違うから。だから、このヘブライ語を読めなくても、知らなくてもいいんです。そんな、まして歌えなくてもいいんです。ただ、私が言いたいのは、[そして、地は、・・・であった] [形なく虚しく、そして闇が淵の面の上にあった]と読んでいくときに、「そこにはゆっくり深い息と語りかけ、語り口があったんだな」と思いながら、日本語で読んでみてください。私たちは慣れていきますから、理科の教科書を読むように、社会科の教科書を読むように、それを読むのに、慣れていきます。小説を読むように、「はじめに、神が天と地を創造されました。地は、混沌であって、闇が深淵の、ふんふんふん」と読むんです。でも、もういっぺん、目をクリアにして、気持ちを新たに、初めて聞くように、読んでみることです。1:16:41.89

ですから、神の前に立ってね、このように語りかけを聞いていくと・・・どうなんですか？

[天と地を造られた]と言うけれど、それは、あなたの内に語りかけ、シャワーのように浴び始めたあなたの内側に・・・なんです。自分の胸の内側に、腹の内側に、この事の実態が広がっていくだけ。具体的には、まだ、わからないんです。

でも、[初めに神が創造した]という、・・・『大きな神の世界の中に、我々は、天と地を創造した』ということは、「え？神様は、どこに造ったんですか？」と言って、天を仰いだり、周りをキョロキョロしたりして見る。その天は、どんな天か？その地は、どんな地か？という。でも、そうじゃなくて、それは、まだ、わかんないんだから。1:18.11.54

そして、次に、[ヴェーハ アーレーツ]、[そして、地は、形なく虚しかった][そして、闇があったんだ]と。「え？」って、頭では思うかもしれない。けど、神の前に1人出て、自分が神の子として、言葉のシャワーを浴びている者にとっては、その自分の内側に広がっていった[地は、][形なく虚しく、闇があった]というのを納得してしまうんです。そうではありませんか？我々の内側を深く見た時に、それは混沌としていて、もやもやしていて、形がなく、なんかわけわからなくて。そして、奥深くには、何か闇があると。これが人間の腹の中じゃありませんか？しみじみと、それがね、納得しちゃうんです。分かっちゃうんです。

そして、その次、それだけじゃなくて、[その上に神の霊が飛び回っていた]どこに？[水の表の上に]と書いてある。「え？水が、あったんだ。神様は、いつの間に水を造ったんですか？」と思ってしまう？水の上を、[神の霊が飛び回っていた]・・・この『神の霊が飛び回る』と言う単語は、[メーラヘーフェト]と書いてある。この単語は、非常に珍しい言葉で、申命記(32:11)の中に、この言葉がもう一回使われているんだけど、その申命記のところには、[親鳥が羽根を広げて、雛の上にパタパタターと羽ばたいている様子]に使われています。雛な鳥が、巣から、「これから出ようかな」「出ないでおこうかな」と、ピコピコしている時

5C①キングダムセミナー20250111

に、親鳥がやってきて、大きな羽を開いて、パタパタパターと、羽ばたいて、「さあ、飛び立って行け」「さあ、出て行っていいぞ」と言っている動作のところに使われているんです。これは、非常に印象的なその動作です。

もう形がなく、定まらなく、ふやふやしていて、もう闇があって、どうしようもない我が内なる腹の中は、それだけじゃなかった。そこに『神様の動作』が始まっていた。それは、なにか？・・・『神の霊』が、その中に飛び回っていた。パタパタパターと、あなたの『闇の内側に』ですよ。水の上に飛び回っていたんです。なんか、これって、混沌の中で不安でどうしようもない自分の内側に対して、希望が持てませんか。

(・・・水があって、『水の上に』です。じゃあ、『水』って、何なの？ということ、ここで説明すると長くなるので、ちょっと置いといて、今は先に進みます。『水』というのだけを心に留めておいて、先に進みますね。) 1:23.16.08

3節[そして、神は言った。光が、あれ。][すると光があった]3節は、短い節です。この3つ目の単語[イエヒー]って書いてあるよね。[あれ]なんです、下の欄外の線の下、右側の3.に、[イエヒー]と書いてあって、[存在せよ]と、いう意味です。あなたのその腹の中に闇があった。もうどうしようもない。それも事実だけど、神の霊が、あなたのうちに。そのままじゃなくて、神の霊がパタパタパターと羽ばたいて、何かを始めておられる。そこに、神は[光が存在せよ]って言ったんです。なぜかなら、あなたの中には闇があるから。だから、[ヴァイエッヒ、オール].[すると、簡単に、光があった]んです。というふうに書かれてあるんです。 1:25.12.05

神様の働きかけが、パタパタパターと、メラヘフェット、飛び回っていたその上に、神の言葉があった。『光が存在せよ』と神が語った。すると、『光があった』と言っているんです。皆さん、これって、凄いダイナミックな動的な表現なんです。小説みたいに、理科の教科書みたいに、「ふんふん」と言って読んだら、それまでよ。だから、今日、帰ってもう一度、ここをゆっくり読んでみて、ダイナミック性を感じられれば、OKです。そして、その神の“わが内なる働きかけ”を“良し”としなきゃね。 1:26:27.96

そして、5節、神はその光を呼んだんです。なんて呼んだ？[昼と呼んだ][その光を昼とし、その闇を夜と呼んだ]と言っている。[呼ぶ]というところのカタカナに[カラー]と書いてある。また欄外の線の下5節後のところを見てみると[ヴァイクラー]と書いてあるんだけど、別訳で、[名付ける、呼んで任命する]って書いてあるよね。

だから、ここで日本語訳がいちいち迷ってしまうところなんだけど、ぱっと読みやすいように[呼んだ]と書いてあるけど、そのニュアンスは、皆さん、神様が、[呼ぶ]っていうことは、そんなに、ちゃちなことじゃないですよ。あなたが飼ってるペットを呼ぶんではないですよ。神様が[呼ぶ]というからには、そこには、重いメッセージがあり、『指針』があり、『任命』があるんです。神は、[その光を昼と、呼び、その闇を夜と呼んだ。]そして、第一日が経った。この第一日目をご自分でみてきましたけれど、どうだったでしょう。それでは、ちょっと休憩しましょう。休憩の間、味わえる人は、もう一度、味わってください。

5C①キングダムセミナー20250111

5C①後半

それでは、後半いきましょう。

前半、創世記の1章の第一日目と一緒に読んできました。大抵、みなさん、理科の教科書を読むように「あ、1日目は、初め、こうこう、こうやって造られたのね」「2日目こういうふうに、これ造ったのね。」と、そういう風に見ていくのがノーマルかな？と。まあ、人それぞれでしょうけれども、**聖書の成り立ちと語られ方からすると**、聖書は、この宇宙がどの順番で、科学的にどういうふうに造られたのかと言うことを、まず、言いたいのではない。そういうふうな言い方で、それを明らかにしたかったんだったら、また別の言い方があるでしょう。ですから、**聖書の初めのとつき方として、とっても大事なことです。**

神の前にいるあなたの、その内側に神の言葉を聞いたときに、それが広がっていく。そして、あなた自身が、神の語りかけによって、造り上げられていくのです。あなた自身が、よ。そして、あなたというカラーが、そこで出来上がってくる。その大事な奥深さを、聞き損じたら、聖書というのは、読んでも、勿体無いんです。2:42.21

さて、この調子でいっていたら、3章までいくのにどれだけかかるか？ということになっちゃうので、ちょっと、ピッチをあげてもよろしいですか？・・・イヤー、創世記をそこまでやったんだったら、もっと、10章まで、20章までやってもらえませんか？・・・って、よく言われるんです。そんな思いになってくれば、凄いいねえ。キングダムセミナーなんかどうでも良いから、聖書、聖書、って、・・・それは、当たり前ですけどね。

・・・途中で、参加者の質問に対応して、・・・先程話したことの要約として、・・・03:34.57

理科の教科書のように、「この順番で、これ造ったのね。次は、これ造るのね」というような短絡的な受け取り方、それは、書いてある表面的なことですから、もっとそこは、あなたの内側を、神が、あなたを愛して、あなたをどう育てているかという、そういう神様の、語られる方の『思い』がある。それを、感じ取りましょう、受け取りましょうということですよ。

それを、あなた個人、ひとりひとりみんな違うのを、神様は知っています。みんな過去があり、今がある。その神の語りかけを、ひとり、神の前に出て、シャワーを浴びている、聞いているあなたに合わせて、もっと続きを語ってくださり、思わせてくださるのは『聖霊の働き』です。だから、私は、その導入部分だけを紹介しています。だから、その意味で、小説を読むように、すーっと「ふんふん」って通り抜けるようなものではなく、とんでもないということです。しっかりと、内側をつかみ、揺さぶり、開いて見せていくものです。だから、聖書は、ダイナミックなものなんです。**神様の息遣いとドキドキが、そこにあるんです。・・・**ということで、良いですか？先に進みますね。6:09.47

それで、今、ラインに 第2日目の部分だけのプリントを送りました。今、ここに居る皆さんは、プリントを配りますから、ラインを開かなくてもいいですよ。ラインで参加しておられる方、後で録音で見られる方に送りました。対訳聖書を持っておられる方は、それでいいです。6:44.85

5C①キングダムセミナー20250111

では、第二日目。先に、日本語聖書を見て下さい。6節[そして神は言った。]大空よ。水の間にあれ。水と水との間に区別があるように]と仰せられた。こうして神は大空を造り、大空の下にある水と大空の上にある水とを区別された。するとそのようになった。[その大空を天と名付けた。]こうして夕があり、朝があった。第2日。]

さあ、ここもそうですが、結構出てくる『水』なんですけど、『水』ってなんですか？[大空よ、水の間にあれ。水と水との間に、区別があるように]これって、なんですか？[天の上にある大空の水、水分。地上にある水とを分けた。こうして、大空を造り、大空の下にある水と、上にある水とを区別した。すると、そのようになった。]・・・何でしょうね。いい加減に『水』っていうことを、突っ込まないと、進みませんね。

『水』って、皆さん、聖書の中で、今までどう聞いてきましたか？もうキングダムセミナーを2回目、3回目の人は、知っているよね。旧約も新約もずっと何年も読んできた人は、どうですか？不思議ですよ。神様が『水』を造ったと書いてないのに、最初から『水』があり、ずっと『水』というのを、神様がよく話に使われています。本当に、大きなテーマなんです。聖書の中でよく使われてきたのは、神の『行為』に使われています。また水というのは、神様の『祝福』に使われたりしているのを分かりますよね。また、それとは反対に、水が神の『裁き』に使われているのも分かりますよね。『水』というのは、神様の一体、何なんですか？

新約聖書の中に、"万物は、『水』から造られておる"というような書き方がされているのを知っていますか？そのところは、ペテロだったかな？そんな箇所があるんです。(IIペテロ 3:5~6[・・・すなわち、天は古い昔からあり、地は神のことばによって水から出て、水によって成ったのであって、当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。])『万物は、水から造られて、』って、・・・じゃあ、何？神の創造に関わることなの？水というのを、また、別の言い方をすれば、人間の在り方、生き方によっては、『水』が『祝福』になり、人間の生き方、あり方によっては水が『裁き』にもなる。

だから、『水』というのは、神様が人間を育て、祝福し、神の国を完成させていくために、とっても用いているものなんだということ。[私たちの腹(心の奥底)から、生ける水(の川)が、流れ出るようになる]とイエス様は言いました。(ヨハネ 7:38)それについても、最初、この創世記の第二章では、[エデンからエデンの中に泉が湧き起こっており、そこから川が流れ出ている。そのエデンから4つの川がエデンの外の世界に流れて、それが4つの水の源になっていた。]と書いてある。・・・なんですか？『水』って。

まず何よりも、今日の一日をみたら、あなたの内側の底の底に、闇があったけれど、混沌だけど、『水』があったんだよ。ホッとしませんか？闇ばかりじゃなくて、水があって、その『水の上』を、神の霊が、飛び回っていたんですよ。「よっしゃあー！」と思いませんか？「ヨシ、ヨシ」と。

だから、ここまでいくと、神のいうこの『水』って、神様の願いや思いを『実現させる』、『それを周りに届ける』、言わば、神の口から出た『神の言葉』のように、です。そうすると、天の上の水と下の水。・・・まだ、地が造られていないけれど、我々、人間が、自分が、立つところというのは、下の方。まず、天は、上の水と下の水とを分けて、その間に造られた。天にある神の御心。地にある神の御心。それは、『天の神の言葉』と『地の神の言葉』といえるかもしれない。 16:06.77

5C①キングダムセミナー20250111

では、『海』は、なんですか？水で満ちている海。初め、陸を造っていなかったと、この時点では、いうわけです。そして、神の御心に満ちている下の水、それを、・・・9節、[『天の下の水は、ひとところに集まれ。乾いたところが現れよ』と仰られた。]・・・神はこれから、あなたに向かって語っている。つまり、あなたの立つところが、あるわけでしょ。[すると、そのようになった。][神は乾いたところを、『地』と名付けた。水の集まったところを、『海』と名付けられた。][神は、それを見て、良しとされた]んです。17:06.60

あなたの立つ、乾いたところをここで、『地』と書いてある。それをヘブライ語では、『エレッツ』というんですけど、ヘブライ人が『エレッツ』と聞くと、『エレッツ イスラエル』、つまり、イスラエルの地、これは、『神の約束の地』だというのが、もう、ピン、ピンピンとくるんです。つまり、人が立って、神の務めをするところ。その足台としての『陸』を造られたんですね。[そして、そこに植物、種を生じる種類に従って、その中に、種のある実を結ぶ果実を、地の上に、芽生えさせよ]と仰せられると、それは、そうなった]と。[それで、地は植物の各々のその種類に従って、種を生じる草、その各々の種類に従って、その中に種のある実を結ぶ木を生じた。]18:25.78

1章の中で、沢山、出てくるもう一つの単語は、なんですか？・・・種を生じる草を・・・そう、『種類』です。この種類、種類って、なんでこんなに『種類』を繰り返さないといけないんですか？ここに神様の息遣いがどうあるんですか？私たちは、自分の内側を見つめていると、狭く狭く、小さく小さい本当に、紐1本で括られ、ピンで止められたようになっていくんです。でも、神様は、地に植物を造ったというだけではない。種類に従って、数えきれないほどの多様なものを、神は持っておられる。造っておられるんです。

私たちは、その生き方としたら、その一つですけど、私はその一つでも、私以外の周りの人達は、いろいろいるんです。それをね、私がこうだから、あの人もこうでなきゃとか、自分はこうだという風に、自分の中で造り上げてしまいやすいですけど、・・・神様の持っている広さ、多様さ、パラエティー、こういうものの中に、自分は造られていくのです。20:43.92

次いで、14節。[神は、言われた。光るものは、天の大空にあって、昼と夜とを区別せよ。季節の印のため、日のため、年のために役立て、]・・・ここも、言い方、独特なんです。[光るものは天の大空にあって]と、言うことは、「ああ、神様、太陽や月や星を造ったんだね。ふ〜ん」と。そう思うだけだったら、もったいない。[天の大空で光るものとなり、地上を照らせと仰せられた。すると、そのようになった。][それで、神は ふたつの大きな光るものを造られた。][大きい方の光るものには、昼を司らせ、小さい方の光るものには夜を司らせた。また星を造られた。][神は、それらを天の大空に置き、地上を照らせ、また、昼と夜と司どり、光と闇と区別するようにされた。神は、それを見て、良しとされた。]22:15.45

神の前に、御言葉のシャワーをひとり受けているあなたは、あなたの内側に何を造られましたか？この14節のしつこい書き方。これを見なさい。読みなさいよと。印のため、季節のため、日のため、年のために役立てよと。つまり、あなたが生きていく、この世の時間、時期、時代というこの『時』を、昨日、今日、明日というこの『時』を、ここで神様は、意識させているんです。23:31.24

5C①キングダムセミナー20250111

神様は、あなたの時というものの『造り主』です。神様は、あなた『個人の時』というのを、あなたの内側で持っておられる。だから、時が遅い、進まない。あるいは、また来たか。なんでこんなことが・・・と言う時、タイミングというものがある。しかし、あなたの時も、あなたの歩む時代も時も、それらが全部、それは神が持っておられるんだよと、ということです。 全てに時があると。・・・自分の『今という時』を、神のこの御言葉のシャワーの中で、『今』をどう受け止めますか？その連続なんです。

私達は、2024年という時をこうして歩んできました。じゃあ、2025年というこの時を、どうしますか？どう、あなたはそれを使い、解き放ちますか？この正月、その『時』について、内側で、造り主なる主と、聖霊と、語り合いましたか？「2025年、どうしましょうかね？」と。それで、じっくり語り合って、「ヨシ、じゃあ、これでいきます。」と、立ち上がりましたか？26:21.41

はい、では次、20節を見てください。[そして神は、『水は生き物の群れが、群がるようになれ。また、鳥は地の上、天の大空に飛べ。』と仰せられた。][それで、神は海の怪物と、その種類に従って水に群がり、うごくすべての生き物と、その種類に従って、翼のあるすべての鳥を創造された。神は見て、それを良しとされた。]さあ、今度は、生き物が出て来た。海の生き物とその水に群がるすべての生き物。また、ここでも『種類』が出てくるでしょ。そして、翼のあるすべての鳥も生きます。そうやってきた。27:40.49

22節[神はまた、それらを祝福して仰せられた。『産めよ、増えよ。海の水に満ちよ。また、鳥は地に増えよ。』]ここで初めて、神様が『祝福した』と、という言葉が出てきます。何に？“生きているもの”にです。生きているものを祝福して言われた。それも何て言ったかと言うと、『産めよ、増えよ。海の水に満ちよ。また、鳥は地に増えよ。』と。すなわち、生きているものが、このあなたの『内側世界』の中に、『命が満ちよ』ということです。「神の命が満ちよ。造られた、あなたの『内側世界』に満ち満ちていなさい。」と。・・・「そんな一、私は人間です。そんな犬や猿やカラスの命なんていりません。」と、言いたいかもしれません。でも、そうじゃない。29:21.70

神が造られた“すべての生きもの”の種類と命が満ちるんです。さっき、あなたの『内側にある時』と言いました。今度は、あなたの『内側の空間』、あなたの内側のすべての空間に、神が造られた命が満ちるんです。ものすごい、多様性と多感なその世界ですよ。神様が造るあなたの心は、単調なものはありませんよ。分かります？人間の『内側の空間』の世界は、物凄く広く、深く、高いんです。・・・だから我々、人間には、いろんなものを見て、芸術的な感性が湧き上がってくるでしょ。それを語って描き、それを語って例え、それを語って自分の感性を高めていくのです。30:33.68

24節、[ついで、神は、『地は、その種類に従って、生き物、家畜やはうもの、その種類に従って、野の獣を生じよ。』と仰せられた。すると、そのようになった。]25節[神はその種類に従って、野の獣を種類に従って家畜を、その種類に従って地のすべてのはうものを造られた。神は見て、それを良しとされた。]31:04.14

(“はうもの”に対して、) こいつ悪いものだよと、何にも言ってない。生きとし生ける命が、満ちると。

5C①キングダムセミナー20250111

そして、26節に、今度は、人に取り掛かる。【そして神は、『我々に似るように、我々の形に人を造ろう。そして、彼らに海の魚、空の鳥、家畜、地をはうすべてのものを、支配させよう』と仰せられた。】・・・神様がこう言われたということは、人を造る前に、神様の“心”を表現している。『我々に似るように』と。これまで造ってきたもののものにも、“我々に似るように”とは、言われなかった。けど、人間にだけは、『我々の形に人を造ろう』と言われた。ここは、大きなクライマックスなんですよ。さっきのメロディー付きで朗読したら、ここはもう、本当に、注目されるところです。だから26節、27節、28節は、とっても大切に、押さえておかないといけない『キーワード』です。

それから、『支配させよう』と言うと、もの凄く暴力的で、凄惨なように思うけど、この訳文の『支配』という言葉で、いいものかどうか・・・これも1つの考える焦点なんですけど。とにかく日本語訳では、『支配させよう』となっているけれど、『治める』、『守る』、とかいろんな言い方が出来るんだけどね。33:38.58

27節【神はこのように、人をご自身の形にされた。神の形に彼を創造し、男と女とに彼らを創造された】・・・神の形に造ったんです。男と女を、創造した。2章にいくと、女が後で造られたみたいになってるけれど、1章の神様の語りでは、男と女という“人”を造った、この[人]は、男性です。男と女と言うのは、1人の人から『分けられている』ということです。・・・だから男も女も、完全に同等です。この1章の土台を忘れて、2章だけ読むと、なんだかんだと、変なことになるんです。34:50.35

そして、28節【神は、また彼らを祝福し、このように神は、彼らに仰せられた。『産めよ、増えよ。また地に満ちよ。地に従えよ。海の魚、空の鳥、地を這うすべての生き物を、支配せよ』】・・・と、『支配』という言葉が、またここで繰り返されている。すなわち、神が造られた“あなた”という“自分”が、神の御前で、みことばのシャワーを聞いて、造られていくんです。自分が、『任命されていく』のです。

ここで『支配せよ』とは、すべてのいきものを、『治める』、『守る』ように『任命された』ということ。ここで、あなたが、この言葉を聞いて、・・・任命されていくのを神の前で自分で聞いて、自分が造られていくんですよ。

つまり、“自分”というのは、神が造られたこの時も、世界もすべてだけど、生き物も、そして、命あるものに対しても、『使命』があるということです。神様が造られて、箱庭のようなところで、ほい、ほい、好きなようなところで遊んでいけば良いと、言っているんじゃないんです。36:03.97

次、29、30節【そして、神は仰せられた。『見よ、全地の上にあって、種を持つ草とすべての種を持つ実を結ぶすべての木を、あなたがたに与えた。それがあなたの方の食物となる。また、地のすべての獣、空のすべての鳥、地を這うすべてのもので、いのちの生きているもののために、食物として、すべての緑の草を与える。』すると、そのようになった。】・・・生きていくためのすべてのものを 神は備えた。だから、食っていくために、「あくせくせよ」とは、言っていない。『それらは与えてあるから、さあ、わたしの前に造られたあなたよ。あなたに任せられている、やるべき存在となりなさい』と。

5C①キングダムセミナー20250111

31 節[そのようになった。神のお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは非常に良かった。こうして、夕があり、朝があった。第六日。]ここで、聖書を長く読んできた人は、質問したいことがあるかもしれない。それは、「1 節と 2 節の間に、[虚しく形がなかった]・・・と、あるけど、神様が造られたのに、虚しく形がないというのは、どうも合点がいかない。」と言って、「その間に何かあったんじゃないか？」と・・・そういう話がありますよね。聞いたことあるでしょ。38:18.39

そうかもしれない。イザヤ書やヨブ記なんかを読むと、それらしきことが、読めるんです。ですから私は、否定はしません。否定はしませんが、ここで神様が、そのことをわかっていたにしても、書かないには書かない理由があるんです。そこに、サタンというのがいて、明けの明星(イザヤ 14:12)とかなんとかのルシファーがいてね、・・・と、書けば良いのに、なんで書かないんですかね。神様にとって、書かないには書かない理由がある。ここで、書くには、書く理由があるんです。

神様はここで、神の前にいるあなた、ひとり耳を傾けて向き合っているあなたに、語りかけ、あなたの中に造りたいものを造っていきたいんです。だから、神様は、神とあなたとのリレーションシップ、『関係性が第一』なんです。ですから、サタンとの第 3 者の関係性は、今ここで、言わなくても良いんです。「サタンがいるから、気をつけろ」と、それは、後々、聖書でいってますよね。けど、そうじゃない。サタンとの関係性を云々するというよりも、先に、神様は『神様とあなたとの関係性を築きたい』のです。それなくば、サタンのことを話に出したところで、意味がない。わかりますか？ クリスマンになって、「サタンよ、出ていけ、サタンよ、出ていけ」と、命じることが悪いことだとは、言いません。ただ、サタン、悪霊を縛る前に、あなたは、神様との、この『神の国の関係性』が築かれていますか？それが大事だということを示しています。41:01.79

さて、第 7 日目。今日初めに LINE で、皆さんに送りました対訳聖書の第 7 日目、これを見て下さい。第 7 日目 2 章 1 節 [こうして、天と地と、すべての万象が完成された。]対訳聖書には、[そして、完成された天と地が。とすべてのそれらの軍勢が。]と書いてあるよね。新改訳では、[万象]というこの言葉が使われ、対訳聖では、[軍勢]となっていますよね。この[万象]という言葉、我々は、なかなか使いませんよね。確かに、言っていること、わかりますよね。1 章で造られたすべてのことだと。でも原文としては、[ツェヴァーム]、[軍勢]と書いてある。[万軍の主]って、聖書では、よくいうじゃないですか、その『軍』なんです。「え？」っと、原文を読むと思ってしまう。『なんか、急に勇ましくなってきたぞ』と。(欄外の下線下 1.参照)

[万軍]、[軍勢]というからには、それらを用いて、何か、行動めいたものが、攻めよってきますよね。じっとしてられませんよ。[軍勢]ですから。ということは、我々、自分も含めて、今まで造られたすべてのことは、神様が、これから何かをする行動の中にあるのか、というニュアンスが、ありありなんです。43:40.20

そして 2 節、[そして完成した。神は、第 7 の日に彼の作業(彼が造ったところのすべての彼の作業)を、第 7 日に休んだ。]と、言っているんです。休んだんです。[彼の造ったところのすべての作業から、・・・]と書いてあるんです。3 節[そして、祝福した。神は、第 7 日を]・・・そして、『聖別した』・・・その日に彼らは休んだんです。造った作業のすべての作業から休んだ。そして聖別したって、言ってるわけ。だから、第 7 日というのは、『安息日』という起源が、ここにあるんだけど、よく読めば、完成したと言っているのは、6 日じゃ

5C①キングダムセミナー20250111

ないんですよね。第7日に完成したと言っている。最後の休んだ1日をもって、“完成とする”という。・・・我々普通考えたら、「6日で造って、終わったから完成しました。7日目に休みましょう」となるよね。ところが聖書はそうじゃない。6日に造って終わっているのに、7日は休んだ。安息した。それで完成したと言っているんです。だから「6日間頑張って、働いたよ」と言って、「だから、7日目休みだよ」と、いう、「その休みを含めて、あなたの仕事は終わりましたと、神様は、あたかも言っているようにです。46:23.84

でもどうですか？人間は、6日目に造られている。人間にとっては、神の言葉のシャワーを浴びた人が、神の御前で、6日目まで神の言葉を浴びてきて、「ああ、そうか、自分は、治めるために造られたんだ。全てを」というものを持って、人間を、自分を、神の前で認めたいでしょう。あなたは。そしたら、その次の7日目に、「さあ、それじゃあ、腕まくりして、一丁やってやるか」と。「じゃあ、やるぞ、やるぞ」と言って、「やったんですか？」と言われると、そこで、ガクンとくるんです。なぜかという、その次の日は、腕まくりして、「さあ、やるぞ、やるぞ」の日じゃないんですよ。完全に安息なんです。

だから、人間にとっては、生まれて、その次の日は、安息だったんです。働くことじゃない。神が、しっかり『聖別する』ということは、『自分のもの』として、神様がしっかり、『抱きしめた』っていうことです。造られた次の日に、あなたは神の前に立っているだけじゃなくて、しっかり聖別されたということ。神様ご自身のものとされたんだと。私達が動くのは、.その後の問題よと。48:05.16

ここで、対訳聖書の2枚目に送った分、**2章の3節**をみて下さい。**[そして、神は祝福した]**・・・何を祝福したの？**[第7日目]**ですよ。あなたが、神の中に憩い、安息し、喜び、楽しみ、もう本当に、安息の域に、浸り込んだ、その日を、その『時』を、神は『祝福』したんです。

あなたから、「せっせと、これやって、あれやって、・・・神様、これしました」「この奉仕しました」「断食しました」「何日祈りました」「これだけ献金しました」っていう、そういうことじゃないんです。

あなたが、神のもとに抱き寄せられて、しっかり、自分の力と神の力を解け合わせて、もう満ち足りて、嬉しくなって、喜び溢れた、その『時』を、神は、『祝福』したんです。そして、それを、その時を、しっかり神様は、『聖別』した。49:37.03

そして、最後の最後に、なんて書いてあるか？という、・・・**3節と書いてあるその下の行**です。**[ヴァ、イエカデュ オトー]** **[それを聖別した]**と、書いてあるよね。その次、**[キー][なぜならば]**という理由を述べる単語があって、**[ヴォ][その日に]**、**[シャバット][神が休んだ]**、**[ミコール][すべての～から]**、という意味。**[メラフトー][彼の作業]**・・・なんの？**[アシェル、バラー、エロヒーム][神が創造したところの]**、要するに、[すべての作業から、彼が休んだ]。[キー][なぜならば、]と言って、そのあと理由を述べています。

だけど、こんなこと、ここで理由をつけなくても、もう、言ってるんじゃないですか。そうじゃないですか？何故また、**[キー]**と繰り返して、またそんなことを言い始めるのでしょうか？これが、じっくり読んでみると、「エエー」っと、なってくる。51:24.85

5C①キングダムセミナー20250111

それは、何かというと、2枚目の3節の一番最後の単語を見て下さい。造るためにという言葉があるよね。ラアソートという言葉、これは、不定詞なんだけど、・・・これね、造るためにというラアソートが、なくても、この翻訳されている日本語の通りに訳せるんです。皆さん、その文字にね、親指をこう載せて初めから、3節をたどって、ゆっくり、じっくり読んで見て下さい。そうすると、・・・ラアソートという最後の単語がなくても、この翻訳されている日本語の通りに訳せるんです。ね、そうなんです。53:34.87

それなのに、これが、なんでついているのか?というのが、実は、昔から、ユダヤのラビ達にも、不思議なところだったんです。「まあ、造るため、造るためと言ってきたんだから、神が造ったということを、強調してるんだろう」という解釈が一つある。それで通してきたという面もあるんです。ところが、キリスト教になったら、「ああ、神様の創造の中のちょっとしたことを、何くどくどく言っているんだ」と言って、ここの解釈を、「これ、ついているけれど、あまり何も気にしない」というようになっていったんです。54:33.34

だけど、これをよく読んでみると、どうしても、違和感があるんです。なぜならば、終わりから3つ目が、[創造する]という[バラ]を使っている。なのに、一番最後には、[バラ]の不定詞を使わないで、[アッサー]という、人間も主語になりうる造るという[アッサー]を使っているという、不思議。[バラ]というのは、神様しか、主語になりません。だから、神様の行為なら、[バラ][バラ]と繰り返さないと強調にならない。ここで、わざわざ、人間も主語になりうる[アッサー]の不定詞の[ラアソート]を使うということは、・・・「う、うん?」と、思ってしまうませんか? 55:36.66

では、この3節は、なんと訳せるかということ、ちょっと、聞いてて下さいね。横に3節の縦書きで、日本語訳がありますよね。これ新共同訳ですけど、この日に神は、すべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第7の日を神は祝福し、聖別されたそして、最後に [造るために] という一言が、付け加えられているんです。・・・「なんでよ。もう、造り終わったから、安息して、祝福したんじゃないの? またここで造るの?」ということになる。56:29.40

皆さん、神様が、神の前にいるあなたの中に造り上げた世界を見ている。そして、あなたは、安息の中にたどり着いた。その安息の中で、そこで完成したのは、「これから、まだ神が造りたいものを、神と共に造るためだよ。」という理解、これもユダヤの中から昔からある理解なんです。

でもキリスト教神学の中では、この点は、知ったこっちゃない。そんなことよりも、エデンの園で、すったもんだあったと、いうことの方が、注目すべきであるということになっています。57:31.75

その意味で天地創造は、あなたの内側になされ、まだ、終わってはいない。これから、神が究極的に目指す国、神の国を、神は、あなたと共に造るのだと。人と共に造るのだと、・・・言っている。それが、我々に、開かれてくるんです。 58:17.94

このことは、ほんの一つであって、おおいなる過渡期のはじめに、出始めの過渡時代に、これをどう受け取れたか。今、私たちが、イエス様の時代から 2000 年たって、ずっとこれは、語り継がれてきたこと。でも、今、御霊は、あなたの内に、この創世紀をもう一度読ませて、何が開かれるのか。何に気が付くか。新しい酒には、新しい皮袋が必要です。これから、主がなさろうとするこの時代には。 59:22.80

5C①キングダムセミナー20250111

というところで、ちょっと余裕を持って4時位までに終わろうとしたんですが、もう過ぎています。

1つ歌って終わりましょう。さっき練習しました。《今日覚めるものよ》を歌います。

今日覚めるものよ。我が内にありて、喜び楽しみなさい。

古きは去りて、新たなる世界。

衣を脱いだ 新たなる世界

アルファであり オメガである

主が ここにおられる。

賛美 1:05.35

今日のセミナーで語り合ったすべてのことを祝福します。

主の前で主の中で、私たちがこれを語り受け止めました。

聖霊が各々に、我々の内側で、補佐し、助け、教えてくださることを信じます。それを受け取ります。

私達の心は、ふわふわしません。私たちの心は定めて、神の中に定めて、

イエスの十字架の中に定めて、おき、そして甦り、我々は 2025 年を進んでいきます。アーメン！

それぞれにふさわしい歩みの一歩、一歩を、我々は祝福し合います。

主イエス・キリストの名の中で、これらを語り合いました。アーメン！

はい、それでは、第1回目、終わります。また来月、お会いしましょう。

それから、私は、お集まりになった皆さん一人ひとりに確実に、これを お届けしたいんです。

ですから、月1回聞いただけで、心の中でなんか消化しづらい、もやもやするところがありましたら遠慮なく尋ねてください。ラインで尋ねてください。電話をください。近くだったら会いましょう。

今33人なってるけれど、私、1回セミナーやったら、33人の方に、一人一人、その月のうちに会って、話したいぐらいです。それぐらい思っています。何十人といったら、もう、それオーバーしちゃって難しいでしょ。33人もなるとも思ってなかったから。はい。でも気持ちはそうですですから、遠慮なさらないで、尋ねに来てください。私も若い頃そうだったから。もう、ど厚かましい青年でしたから。忙しいんですといわれても、じゃあ、いつ空いてるんですか？といって、30分でもいいですからと言って、行きましたからね。そこにおいては、皆さん、人にどう思われるかなと思う必要ないんです。神の前で大胆でいましょう。それが、いいことです。じゃあ、またこのラインセミナーで。この辺で終わりましょう。

次は、2月の第二土曜日です。はい、ありがとうございました。皆さんを祝福します。